

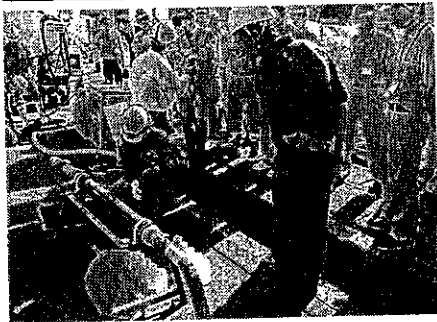
2015年(平成27年)11月25日

アイスピグ工法

富山市でデモ施工

北陸圏初 長距離圧送管で

アイスピグ中部地域協会(相澤宏暢会長)は5日、富山市内でアイスピグ管内洗浄工法による圧送管洗浄作業のデモ施工を実施した。北陸圏では初の試み。山越とサンテックが施工を担当。富山市や滑川市の下水道関係者が視察に訪れ、高い関心を示した。



洗浄効果に高い関心

対象管路は、同市千成町地内に布設されたの100×400サイズの長距離圧送管。布設後約24年が経過していた。最上流部の汚水中継ポンプ施設から下流側の鍋田地区にかけて逆勾配のため、圧送区間としている。同区間に点検口等がなく、日ごろの清掃・維持管理で苦慮していた難現場。

同工法は、特殊アイスシヤベット(SIS)を管内に注入し、洗浄する工法。管閉塞の恐れもなく、伏越し部等の難現場に

も対応する。

名古屋市内の製氷拠点からテリバリーユニットでSISを搬送し、午後1時半から洗浄作業を開始。同ポンプ施設の配管に注入口を設け、2・2分のSISを注入。管内でピグ形成を確認した

後、注水し下流側の回収口へ押し流した。回収口まで約10分ほどで到達した。洗浄効果の確認用のアクリル管内を、黒色に変色したピグが流入するのを確認したほか、採取したサンプルからはシヤベット状態を保ったまま夾雑物を包み込み除去しているのが

確認できた。相澤会長は「消雪パイプの目詰まり対策など、さまざまなインフラパイプの維持管理に活用できる」と有用性を強調。視察した富山市職員は「圧送管路の清掃作業で懸念される目詰まり等の問題なく清掃できるのが画期的」と講評した。